



8月30日から9月5日は
防災週間

大正12年9月1日午前11時58分、関東地方に大きな被害をもたらした関東大震災が発生しました。
死者・行方不明者は、約14万2千8百人という大惨事となりました。
この関東大震災を教訓に、防災意識を高め知識を身につけて、防災に対する備えを見直すことを目的として、昭和35年に「防災の日」が定められました。

みんなで、身のまわりの
「安全・安心」総点検



備えは大丈夫ですか？
非常持ち出し品チェック！

- | | | |
|------------|------|------------|
| ■懐中電灯 | ■ラジオ | ■救急箱 |
| ■水 | ■非常食 | ■缶切り |
| ■ライター | ■ナイフ | ■ロープ |
| ■ゴミ袋 | ■軍手 | ■下着 |
| ■生理用品 | ■乾電池 | ■現金 |
| ■ウエットティッシュ | ■保険証 | ■トイレットペーパー |

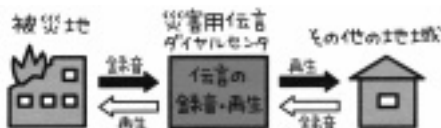


大災害時には安否確認の電話が殺到し回線がパンクしてしまいがちです。

震度6弱以上の地震発生などにより被災地への通話がつながらない状況になった場合にNTTが災害用伝言サービスを開始します。

被災者側は「171」をダイヤルし、音声案内に従って操作をし、自宅電話番号と「花子です。避難所にいます。」などのメッセージを録音（登録）します。

安否を確認する側は、「171」を



ダイヤルし、被災者の自宅電話番号を指定すればメッセージを再生して聞くことができます。

携帯電話や公衆電話からでも録音・再生ができますが、録音（登録）できる電話番号は、自宅の固定電話番号のみです。

詳しくは、NTTハローページ企業名の「営業のご案内」（災害と電話）の欄をご覧ください。



9月4日から9月10日は
救急医療週間

「救急の日」は、救急業務及び救急医療に対して皆さんの理解と認識を深めていただくとともに、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に、昭和57年に定められました。

消防署では、少人数からでも普通救命講習（3時間）を受付けていますので気軽にご相談下さい。

また、最近は本屋さんでも救急処置に関する本もならべられているようです。家庭に一冊あれば家族でゆつくりと学ぶことができますよね。

一家に一冊！どうですか。

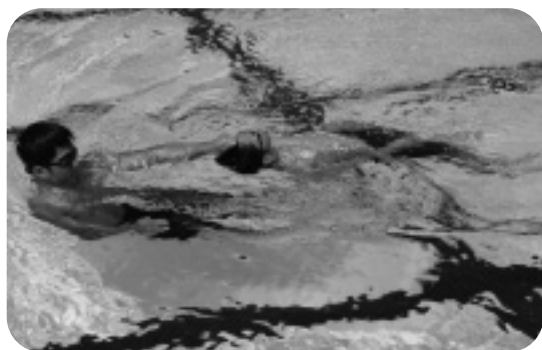
第34回四国地区 消防救助大会 溺者搬送種目入賞

消防の救助技術を競う、第34回四国地区消防救助大会が、7月27日（水）に松山市で開催されました。

陸上8種目、水上7種目の競技が実施され、上島町消防署からは、穂積雅晴消防士・山下拓也消防士が水上種目「溺者搬送」に出場し入賞の成果を収めることができました。

この大会は、消防の救助技術と四国地区消防職員の相互協力関係の向上を図り、消防の使命が達成されることを目的とし毎年開催されています。

今後もこの大会に参加し、訓練で培った技術・体力・精神力を消防業務に役立てていきます。



▲溺者搬送訓練中
穂積消防士（左） 山下消防士（右）



農業講座

しまなみ農業だより ダイコン栽培のポイント

ダイコンは品種改良により、ほぼ周年栽培ができるようになりましたが、秋まきが最も安心して栽培ができます。低温により花芽分化（トウ立ち）するため、冬・春まきは、品種選びとビニールなどのトンネル栽培となります。また、最近では「青首」が品種の主流になってきましたが、漬物用の「白首」や辛いダイコン、丸ダイコンなど好み、用途に応じたいろいろな品種があります。

今回は、すらりと伸びた？きれいなダイコン栽培のポイントについて解説します。

■栽培作型 冬を経過する作型はトウ立ちしにくい品種選びが必要です。表中の品種は参考例です。

表 ダイコンの主要作型

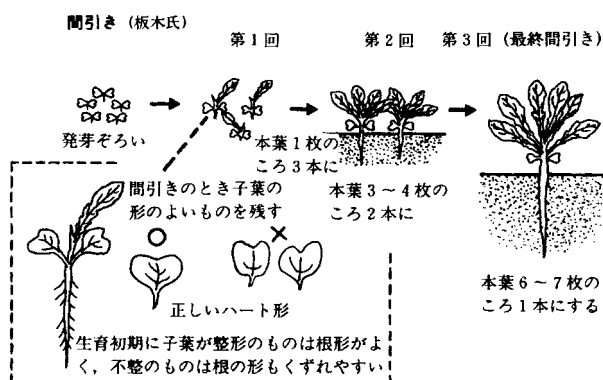
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	主要品種
夏まき						○	●	●	●	●			時無し YRくらま
秋まき								○	○		●	●	耐病総太り
春まき			○	●	●	●					○		天宝 梅風

○種まき ■収穫

■畑の準備 畑を深く耕すことが前提です。また、種まき直前の堆肥の施用や肥料をまいた直後に種をまくと「又根」「曲がり」の原因になります。堆肥を施用するときは1ヵ月以上前、肥料は1週間前までに土によく混ぜておく必要があります。施肥量は1a（10m×10m）当たり苦土石灰10kg、化成肥料10kgが標準です。

■種まき うね幅50cm、株間30cmに4～5粒、種の間隔をあけて点まきします。播き穴はビール瓶の底などで浅い穴を作り、種がかくれるよう土をかぶせます。

■間引き 発芽後、本葉が混み合ってくるので2～3回に分けて葉がふれる程度の間隔に間引きをします。本葉6枚時に1本にします。抜き取る株は極端に小さい株、大きい株、害虫被害株などで、芽が出たときの双葉の形も間引く株の目安となります（図参照）。間引きは品質の良いダイコンを作る重要な作業になります。間引き後は、株元への土寄せを行い根の曲がりがないようにします。



■病虫害防除

●ハイマダラノメイガ ガの幼虫がダイコン葉の芯を食害します。秋まきに多く、防除はディプロレックス乳剤1000倍が有効。

●ネキリムシ、コオロギ 幼苗の時期に地際から食い切ってしまいます。夜に食べるため昼間は虫が見えません。株元近くヘデナポンベイト粒剤、ネキリトン粒剤を地面に適量まいておきます。

●アオムシ、ヨトウムシ 葉を食害します。被害が見え始めたらオルトラン水和剤1500倍、コテツフロアブル2000倍、モスピラン水溶剤2000倍を散布します。

●白さび病 秋に雨が多いときに発生しやすいです。葉裏に白いカビ様のものが付きます。早めの防除が重要で、薬剤はダコニール1000 1000倍を散布します。

●生理障害 赤心症：根の中心部が赤褐色に変色、ホウ素（養分）の欠乏。

空洞症：根の中心部が空洞になり黒く変色する。高温障害

ひげ根症：ひげ根が多い。土が硬く土の通気不良、地下水位が高い。

す入り：収穫適期が過ぎている。